

80.285
 1969年3月11日 鶴岡ロータリー会

'69

会報



THE ROTARY CLUB
 OF TSURUOKA

鶴岡ロータリー

第 494 号

1969.3.11 (火) 小雪

例会場 鶴岡市本町2丁目 ひさごや
 事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所内 ② 5775

「参加し、敢行しよう」

12月	地区別順位	会員数	出席率	前月順位
	5 3 位	63名	85.71%	66位

卓話 新聞の今昔と地方紙
 小野寺 清君

出席報告
 本日の出席 会員数 62名
 出席数 45名
 出席率 72.58%

欠席者 荒明君、林君、平田(圭)君、
 五十嵐(三)君、金井君、嶺岸
 君、三浦君、五十嵐(八)君、
 黒谷君、鈴木(善)君、笹原君
 辻君、手塚(林蔵)君、鷺田君
 阿宗君、白井君、大野君

前回の出席 前回出席率 79.03%
 修正出席数 56名
 確定出席率 90.32%

マークアップ
 大竹君一宮内RC
 阿部(公)君一酒田RC
 富樫君、三井(徹)君、三井
 (賢)君、齋藤(得)君、齋藤
 (信)君一鶴岡西RC

ビジター 片桐敬弼君、宮崎賢暎君
 一新潟南RC
 相馬治一郎君一酒田RC
 本間庄一君一村上RC
 五十嵐卓三君一鶴岡西RC

ソング 我等の生業 リーダー 三井 健君

司会 会長 石黒慶之助君
 ★次期会長に御指名なりました鈴木善作さん
 の奥さんが、3月9日荘内病院で亡くなられ

ました。葬儀は3月13日午前11時山王町の林
 泉寺で執り行ないます。クラブから生花をそ
 え、会長、幹事仲間に参加しました。

選衝委員長の小花さんより、鈴木さんがど
 うしても会長を引受けかねる御意向で、この
 問題を早急に検討して3月末まで、次期役員
 を選出しなければなりません。昨夜事前の策
 をこうずべく、選衝委員会をひらきました。
 その結果後程、次期会長、役員の名指名があ
 ると思います。

★例会終了後、理事会を開催、理事の居残り
 をねがいます。

★大竹君 私の父の葬儀に際しては、皆様か
 ら御香奠並びにクラブからは立派な供花を頂
 戴し、厚く御礼を申し上げます。

★小花君 皆様から御賛成を得まして、次期
 クラブ役員、会長になっていただく予定の鈴
 木善作さんの奥さんが亡くなられ、非常
 に思いがけない事態が生じ、何とか快復を待
 って御就任を願いたいということ、その後
 色々と病状の経過についてお話をきいており
 ましたが、このように急死され、鈴木さんの
 自退を認めなければならぬ状態にたちいた
 りました。

今後の新会長、及び理事の方につきましては、
 新しいかんてんに考えたいと思い、この
 前御承認得ました案は白紙にもどして、昨夜
 委員会で充分話しあった結果、次のように案
 がまとまりましたので、御発表させていただきます。

- 新会長 三井 徹君
- 理事 平田貞君、小花繁治君、安藤定
 助君、小野寺清君、五十嵐八郎君
 現会長石黒慶之助君

以上のように決定になりましたので、よろし
 くねがいます。

★次期会長三井徹君 私自身が会長不適格な
 要素があり、申上げるまでもない事でありま
 すが、特にこの際一言申し上げておきますが
 御指名に対しては、大変光栄に存じ感激いた
 しております。

私が会長になりますと時間的に制約されて
 おりますので、又10年来私の他に医者が1名
 おりますので、一緒に仕事をしていたが、
 最近医局の変動で医員の派遣が思うように参
 りませんので、現在は1人でやっている状態
 で、この見通しもついていませんし、この点
 を一番心配しております。このような状態で
 すといつても会長が不在になるような事で、御
 迷惑かけるじゃないかと心配されます。

このような状態でもよろしければ、折角御
 指名を受けましたので、出来るだけ努力して
 みたいと思います。

卓話 新聞の今昔と地方紙
 小野寺 清君
 近代新聞の出現する前の新聞類似物は17世

会報はご家族みんなまでよみましよう

期の初期といわれています。現存する最古のもの、1615年=慶応20年=いまから約354年前、大坂夏の陣を報じたもので木版印刷であったらしいようです。

活字新聞で日本国内で最も古いものは横浜毎日新聞で、1870年=明治3年暮れ=いまから約99年前であります。明治から大正、昭和の初期にかけては、いわゆる特定の思想と政党を基盤とした一種の機関新聞といった性格が強かったといえましょう。

さて山形県内の歴史をみると明治2年、例のワッパ事件が動機となって酒田から発刊されたのが最初のようです。即ち明治維新のとき、庄内藩を訪れた西郷隆盛のいわゆる『誠を人の腹心に置く』措置によって庄内藩の降伏謝罪案が成立、70万両を政府に納めて事は終わったが、この大金の半額が政府に納められていないというわさがひろがり、時の県参事、松平視懐に向けられて喧々ごうごうたる有様、一方また明治6年7月、太政官は地租改正条例を公布し『明治5年の年貢は金納勝手たるべし』とし、従来米納を現金で納めてもよいことになったのだが、松平参事は依然として米納させ、県民に条例のことを知らせず集納した約5,000石を売り、税金として政府に納め、残った1万300両を旧庄内藩士の後田山開墾費に当てたとして憤慨した、当時の酒田市本町3丁目目で酒造業をやっていた森藤右工門という人物。10カ条の訴状をもって元老院に建白するとともに一枚刷りの新聞を発行し、ワッパ事件の真相を曝露したがこの新聞は新聞条例違反として編集人は役獄罰金、印刷機は没収されました。

しかし、この庄内最初の新聞の主張を無視できなかった政府は、その後、実地調査員を派遣し、松平も罰せられております。その後県都山形を中心に村山地方を基盤に山形新聞が創刊されたのは明治9年で、今から約91年前、酒田、山形、米沢等で明治12年に発刊されました。

庄内では、明治2年から、とだえていたが明治33年、酒田に進歩党系の庄内日報と自由党系の庄内新報が発刊され、明治35年には、当時の鶴岡米穀取引所開設と同時に小さな商況新聞が出されました。37年には平版4頁の鶴岡新聞が生まれました。当時は斎藤紅村という編集長だったが、笹原定治郎(潮風)を主筆に迎え、政党の影響外におくという売り込みだったが、事実は政友系の新聞でした。

笹原潮は、堺利彦氏らと親交があり、警察から社会主義者とみられ、いつも特高警察官に警戒されていましたが、たまたま彼が庄内新聞と改題した新聞紙上に書いた論説の内容に安寧を乱すという理由で検挙され、3カ月?、投獄されました。そのときの自宅捜索ですが、いまから考えると、珍談ものです。潮風は本の虫といわれるほど多くの書籍をもっ

ていたが、警官は書物の標題に『社会』という2字のあるものは、一冊も残さず没収していったそうです。その後、本社は丸谷医院の隣に移されました。

明治41年には民政系の鶴岡日報が創刊されいまの鶴岡女子専門学校附近に社屋が建てられました。大正の末期、昭和の前にかけて県下各方面に雨後のタケノコのように日刊新聞が発刊されました。即ち山形市には山形新聞、山形民報。米沢市には米沢新聞、よねざわ、米沢朝報。酒田には酒田新聞、両羽朝日新聞。鶴岡市は庄内新報、鶴岡日報、鶴岡新聞等。ところが大東亜戦争のため原材料の用紙が欠乏のため、当時の内務省は一県一紙に統合すべしという布令を出され、最後まで残ったのは山形新聞だけになったのです。

終戦後一県一紙の制約が解かれてから、またまた郡少ブロック新聞が生まれたり消えたりしましたが、結局冗余曲折があった現在は山形市には山形新聞、庄内には庄内日報、米沢では2紙が発刊されています。

さて戦前は政党をバックとした一種ご用新聞の性格が強かったのですが、現在は規模の別を問わず一般商業紙として一党一派に偏しない編集が行なわれていることであります。昭和21年には新聞偏理綱領というものが全国おもな日刊紙の加入している財団法人新聞協会として発表され、この規程に基いてニュースや、論調をかかげているわけであります。従って戦前は読者に配達する以前に必ず検察庁や警察署の事前検閲を受け、これが解除になったのは昭和27年4月28日、講和条約締結後でありました。

終戦後庄内で全国的な新聞種となったのは昭和23年1月26日、東京豊島区長崎、帝国銀行、椎名町支店の行員12人が、青酸カリで毒殺された例の帝銀事件。その真犯人が鶴岡の人だと断定、トップに発表した東京の某新聞があった。そのときは警視庁や東京の各紙、地元紙の記者、カメラマンが殺倒しました。その真犯人?と称された男が川代山の開拓地の家にいるというので現地に急行したら、その本人は『何用できた』といかめしい顔をして新聞記者連中を座敷に通じたところ、床の間には猟銃があった、お茶を出された。これに青酸カリでもはいっていないかと、あるえていた新聞記者もあったという。結局この事件は東京某紙の完全な誤報とわかり、誤報された本人は名誉毀損で訴えたので、東京地裁で争われたが、前に申した笹原潮風の仲介で訴訟を取り下げたという一幕もありました。

そのほか、湯野浜を鶴岡・酒田両市間で激烈な争奪戦が展開されたこと。あの町村合併にまつわる騒ぎは生涯忘れ得ない深刻を極めたものでした。その他いろいろありますが、時間がないので、このへんでやめましょ